

妊娠・授乳とくすり

妊娠中・授乳中のお母さんが、赤ちゃんに影響があるのでは
と薬について不安を感じるのは当然です。

かかりつけの産婦人科の先生に相談することで、
的確な助言をもらうことができます。

本資料は科学的根拠に基づいて記載してはいますが、
内服の判断は、必ずかかりつけの先生と相談して

決めていただくことをお勧めします。

また掲載されていない薬剤でも使える薬はありますので、
主治医と相談の上ご検討ください。

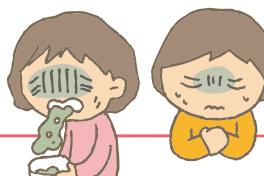


妊娠中

使ってもOKな薬 NGな薬

吐き気止め・消化薬

妊娠中はつわりや子宮が大きくなることによる
消化管の圧迫のため、消化器症状が出やすいです。



OK 吐き気止め

プリンペラン® ナウゼリン®

OK 消化薬

スクラルファート® 水酸化アルミニウムゲル
ガスター® タガメット® オメプラール® ネキシウム®など

NG 消化薬

サイトテック®

解熱薬・鎮痛薬

妊娠中には頭痛、腰痛など、
様々な痛みと付き合う場面も少なくありません。

こうした痛みや発熱の治療には、通常**アセトアミノフェンの使用が推奨**されています。

**OK 解熱剤
鎮痛剤**

カロナール® アセトアミノフェン®



Q. 妊婦のアセトアミノフェンの内服は胎児に影響が出て、
発達障害(神経発達症)の原因になったりしませんか？

A. 大丈夫です。



一部の研究で、アセトアミノフェンは胎児に影響を及ぼし、生まれたお子さんの自閉スペクトラム症やADHDなどの神経発達症や知的発達症リスクを高めるのでは、と報告されたことがあります。しかし、そもそも自閉スペクトラム症は遺伝的、環境的な要因が複雑に絡み合って発症するため、薬物をはじめ、特定の物質が原因となる証拠はありません。多くの信頼できる大規模な研究がなされた結果、現在アセトアミノフェンの服用は生まれてくるお子さんの自閉スペクトラム症やADHD、知的発達症(知的障害)のリスクと関連していないと考えられています¹⁾²⁾。そのため、安心して使っていただければと思います。

妊娠20週以降

**NG 解熱剤
鎮痛剤**

NSAIDs(非ステロイド系抗炎症薬)
ポンタール® ポルタレン® ロキソニン®(内服・テープ)
ブルフェン® モーラステープ®

これらの薬剤は胎児に移行し、生まれてくる赤ちゃんの血管(動脈管という血管)を細くしてしまったり、生まれたばかりの赤ちゃんの肺に強い負担をかけることがあるからです。ただし、低用量アスピリン(パファリン®、バイアスピリン®)は医師の判断で不育症や不妊症症例、妊娠高血圧症の再発予防で使うこともあります。

抗生物質

内服を我慢して治療しないデメリットの方が大きいと考えられるため、適切な抗生物質による治療を受けることが大切です。
かかりつけの産婦人科の先生とご相談ください。



OK 抗生物質

ペニシリン系 セフェム系

マクロライド系 ジスロマック®、エリスロシン®、クラリス®

鎮咳去痰薬 (いわゆる風邪薬)

咳は止めないといけないわけではありませんが、お腹がはってしまう、夜眠れないという場合に使うこともあります。



OK 鎮咳薬
(咳止め)

アスペリン® メジコン®
アストミン® レスプレン®

OK 去痰薬

ビソルボン® ムコダイン®/カルボシステイン®
ムコソルバン®/ムコサール® トローチ剤

局所作用がメインのため全身への影響は限られ、妊娠中も使えます。

注意 鎮咳薬
(咳止め)

コデインリン酸塩® ジヒドロコデインリン酸塩®

治療上の有益性が上回るときのみ

抗アレルギー薬 (花粉症の薬)

第1世代抗ヒスタミン薬、第2世代抗ヒスタミン薬は安全性も高く、妊娠中に使用できるものが多いです。花粉症の方も我慢しなくて大丈夫です。点眼薬も問題なく使えます。妊娠中は皮膚のかゆみができる方もいますが、塗り薬も使えます。



OK
抗アレルギー薬

第1世代抗ヒスタミン薬

レスタンコーウ®、ポララミン®、タベジール®、ペリアクチン®など

第2世代抗ヒスタミン薬

ザジテン®、アレグラ®、アレジオン®、ジルテック®、ザイザル®、タリオン®、アレロック®、クラリチン®、デザレックス®、ビラノア®、ルパフィン®など

メディエーター遊離抑制薬 インタール®

ロイコトリエン受容体拮抗薬

オノン®、シングレア®、キプレス®など

花粉症で使われることのある
ステロイド点鼻薬(フルチカゾン®など)
も安全に
使えます

ステロイド点鼻薬 フルチカゾン®など

喘息の薬

妊娠中に喘息を合併していると早産や低出生体重児等の発症が多くなる報告があり、良好なコントロールでこれらのリスクを減らすことができます。



OK 喘息
治療薬

吸入β2刺激薬 メブチン®、ベネトリン®など

吸入ステロイド薬 β2刺激薬配合剤含む

β2刺激薬 メブチン®など

経口ステロイド薬

ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など

抗コリン薬 アトロベント®など 抗体製剤など

口内炎の薬

治療で用いる口腔内軟膏や口腔用貼付剤は、局所作用が目的のため全身への作用は限定的で、妊娠中に過度な心配は不要ですが、ケナログ®、アフタッヂ®、アフタゾロン®などはステロイドが含有されているため、漫然と使用は避けましょう。



ステロイド外用薬

一般的な使用量、使用方法であれば全身の循環への吸収は少なく妊娠中の使用は問題ないです。妊娠中のステロイド外用薬使用による胎児の先天異常の報告はありません。



便秘薬

妊娠中は便秘傾向となる方が多いですが、便を柔らかくするタイプの便秘薬を使うことができます。



OK 便秘薬

酸化マグネシウム® マグミット® モビコール®

監修：稻葉可奈子 (INABA CLINIC) 佐久医療センター産婦人科

参考文献: 1) Ahlgqvist VH, et al. JAMA. 2024;331(14):1205-1214.

2) Okubo Y, et al. Paediatr Perinat Epidemiol. 2025 Sep 2. doi: 10.1111/ppe.70071

授乳中

使ってもOKな薬
NGな薬

解熱薬・鎮痛薬

解熱鎮痛薬が乳汁中に移行する量はわずかです。

ロキソニン®も乳汁に移行しないことが示されています。

OK 解熱薬
鎮痛薬

アセトアミノフェン® ブルフェン®
ロキソニン® ポルタレン®など

*アセトアミノフェンは赤ちゃんや子どもが熱を出した時の解熱剤として安全に使える薬で、小児の薬としてもよく使われています。



鎮咳去痰薬（いわゆる風邪薬）

妊娠中にOKな風邪薬は基本的に授乳中も内服可能。

OK 鎮咳薬
(咳止め)

妊娠中にOKな風邪薬は
基本的に授乳中も内服可能



注意 鎮咳薬
(咳止め)

コデインリン酸塩® ジヒドロコデインリン酸塩®

喘息の薬

OK 喘息治療薬

吸入β2刺激薬 メプチン®、ベネトリン®など

吸入ステロイド薬 β2刺激薬配合剤含む

β2刺激薬 メプチン®など

経口ステロイド薬

ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など

抗コリン薬 アトロベント®など 抗体製剤 など

注意 喘息治療薬

テオフィリン製剤 (テオドール®など)

赤ちゃんの不機嫌や落ち着きにくさなどの症状が出る可能性があります。



抗生素質

ペニシリン系やセフェム系の抗生素質は子どもの感染症治療にも安全に使われています。母乳を介して摂取する量はわずかです。

OK 抗生物質

ペニシリン系 セフェム系

マクロライド系 ジスロマック®、エリスロシン®、クラリス®

NG 抗生物質

クロラムフェニコール®

吐き気止め・消化薬

OK 吐き気止め

ナウゼリン® プリンペラン®

OK 消化薬

スクラルファート® 水酸化アルミニウムゲル®
ガスター® タガメット® オメプロラール® ネキシウム®など



便秘薬

OK 便秘薬

酸化マグネシウム® マグミット® モビコール®
アローゼン® プルゼニド® ラキソベロン®

抗アレルギー薬
(花粉症の薬)

妊娠中にOKな抗アレルギー薬は
基本的に授乳中も内服可能。

ステロイド外用薬

一般的な使用量、使用方法であれば
全身の循環への吸収は少なく授乳中も問題ありません。

口内炎の薬

過度な心配は不要ですが、ケナログ®、アフタッヂ®、
アフタゾロン®などはステロイドが含有されているため、
漫然と使用は避けましょう。

監修：稻葉可奈子 (INABA CLINIC) 佐久医療センター産婦人科

参考文献: 1) Ahlgqvist VH, et al. JAMA. 2024;331(14):1205-1214.

2) Okubo Y, et al. Paediatr Perinat Epidemiol. 2025 Sep 2. doi: 10.1111/ppe.70071

妊娠中

内服の判断は、必ずかかりつけの先生と
相談して決めていただくことをお勧めします。



妊娠中	使ってもOK	注意・使うとNG
解熱薬・ 鎮痛薬	カロナール® アセトアミノフェン®	NG NSAIDS (非ステロイド系抗炎症薬) ポンタール®、ポルタレン®、 ロキソニン®(内服・テープ)、 ブルフェン®、モーラステープ®
便秘薬	酸化マグネシウム® マグミット® モビコール®	
吐き気止め	プリンペラン® ナウゼリン®	
消化薬	スクラルファート® 水酸化アルミニウムゲル ガスター® オメプラール® タガメット® ネキシウム®など	NG サイトテック®
喘息の薬	吸入β2刺激薬 メブチン®、ベネトリン®など 吸入ステロイド薬 β2刺激薬配合剤含む β2刺激薬 メブチン®など 経口ステロイド薬 ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など 抗コリン薬 アトロベント®など 抗体製剤など	
鎮咳薬 (咳止め)	アスペリン® メジコン® アストミン® レスプレン®	注意 コデインリン酸塩® ジヒドロコデインリン酸塩®
去痰薬	ビソルボン® ムコダイン®/カルボシスティン® ムコソルバン®/ムコサール® トローチ剤	
抗アレルギー薬	第1世代抗ヒスタミン薬 第2世代抗ヒスタミン薬 メディエーター有利抑制薬 インタール®など ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など ステロイド点鼻薬 フルチカゾン®など	
抗生素質	ペニシリン系 セフム系 マクロライド系	

授乳中

授乳中	使ってもOK	注意・使うとNG
解熱薬・ 鎮痛薬	アセトアミノフェン® ブルフェン® ロキソニン® ポルタレン® など	
便秘薬	酸化マグネシウム® マグミット® モビコール® アローゼン® ブルゼニド® ラキソベロン®	
吐き気止め	ナウゼリン® プリンペラン®	
消化薬	スクラルファート® 水酸化アルミニウムゲル® ガスター® タガメット® オメプラール® ネキシウム® など	
喘息の薬	吸入β2刺激薬 メブチン®、ベネトリン®など 吸入ステロイド薬 β2刺激薬配合剤含む β2刺激薬 メブチン®など 経口ステロイド薬 ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など 抗コリン薬 アトロベント®など 抗体製剤など	注意 テオフィリン製剤 テオドール®など
鎮咳薬 (咳止め)	アスペリン® メジコン® アストミン® レスプレン®	注意 コデインリン酸塩® ジヒドロコデインリン酸塩®
抗アレルギー薬	第1世代抗ヒスタミン薬 第2世代抗ヒスタミン薬 メディエーター有利抑制薬 インタール®など ロイコトリエン受容体拮抗薬 オノン®、シングレア®など ステロイド点鼻薬 フルチカゾン®など	
抗生素質	ペニシリン系 セフム系 マクロライド系	NG クロラムフェニコール®